

直近の地域の様子を 衛星画像で見よう

紙の地図などと違って、衛星画像は常に最新の様子を確認することができます

目的と大まかな流れ

目的

衛星画像では直近に撮影した画像が追加されていきます
まずは最も直近の身近な地域の様子を表示してみましょう

流れ

1. [VEGA](#)にアクセス(他の場所を見る際は新しいタブで開くことをお勧めします)
2. 見たい場所(地域の近く)へ地図の方のカーソルを合わせる
3. 右の欄を設定して画像を表示

VEGAにアクセスします

<https://geerestec.users.earthengine.app/view/vega-restec>にアクセスしてください

左の写真の画面になる
はずです
次は見たい場所に地図を
移動させます

見たい場所へ地図を移動させます

方法は2つあります

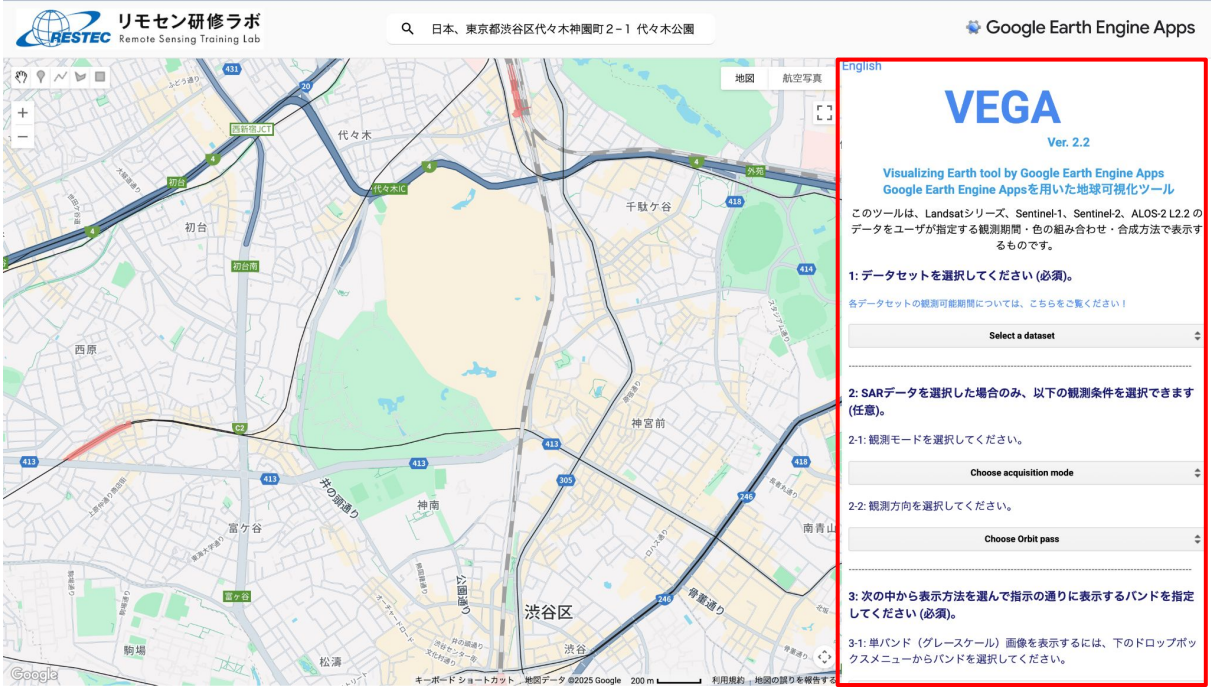
1. 「皇居」など上の検索欄で検索
2. 地図上でドラッグして見たい場所まで移動

皆さんは自分の住んでいる地域のあたりに地図を移動させましょう

この資料では例として「代々木公園」に合わせるため、上の検索欄で
「代々木公園」と検索します

***この時、左下の縮尺が 100m以下にすると見つらくなりますので注意してください**

見たい場所へ地図を移動させます



次は右の欄を設定していきます

右の欄の設定「1と2と3」

1: データセットを選択してください (必須)。

プルダウンから「 Sentinel-2 地表面反射率」を選択してください

2: SARデータを選択した場合のみ、以下の観測条件を選択できます (任意)。

何も設定しないでください

3: 次の中から表示方法を選んで指示の通りに表示するバンドを指定してください (必須)。

3-1は何も設定しないでください

3-2には「B4-B3-B2」と入力してください (コピーペーストでも大丈夫です)

右の欄の設定「4と5と6」

4: 表示させる最小・最大の画素値(光学の場合は反射率 $\times 10000$ 、SARの場合は後方散乱の値(マイナスの値))をテキストボックスに入力してください (必須)。

上の欄には「0」を下の欄には「2000」を入力してください

5: 表示させたいデータの観測時期(検索開始・終了日)を例のようにテキストボックスに入力してください (必須)。

上の欄には1週間前の日付を「2025-09-04」のように入力してください

下の欄には今日の日付を「2025-09-11」のように入力してください

6: データの合成方法を選択してください (必須)。

プルダウンから「最新(合成しない)」を選択してください

右の欄の設定「7と8」

7: 雲マスクを適用する場合は、チェックを入れてください (任意)。

何も設定しないでください

8: 表示ボタンを押して、画像を表示してください (必須)。

下の「Load image」をクリックしたら衛星画像が左に表示されます

表示できました！ 以下のようになります

リモセン研修ラボ

Remote Sensing Training Lab

日本, 東京都渋谷区代々木神園町 2-1 代々木公園

Google Earth Engine Apps

English

VEGA

Ver. 2.2

Visualizing Earth tool by Google Earth Engine Apps

Google Earth Engine Appsを用いた地球可視化ツール

このツールは、Landsatシリーズ、Sentinel-1、Sentinel-2、ALOS-2 L2.2 のデータをユーザが指定する観測期間・色の組み合わせ・合成方法で表示するものです。

1: データセットを選択してください (必須)。
各データセットの観測可能期間については、こちらをご覧ください！

Sentinel-2 地表面反射率

2: SARデータを選択した場合のみ、以下の観測条件を選択できます (任意)。
2-1: 観測モードを選択してください。
Choose an acquisition mode
2-2: 観測方向を選択してください。
Choose Orbit pass

3: 次の中から表示方法を選んで指示の通りに表示するバンドを指定してください (必須)。
3-1: 単バンド (グレースケール) 画像を表示するには、下のド롭ダウンメニューからバンドを選択してください。

3: 次の中から表示方法を選んで指示の通りに表示するバンドを指定してください (必須)。

3-1: 単バンド (グレースケール) 画像を表示するには、下のド롭ダウンメニューからバンドを選択してください。

Choose a band

3-2: 3バンド (赤緑青) カラー合成画像を表示するには、下のテキストボックスに赤、緑、青の色を割り当てるバンドの組み合わせを例のように入力してください。

B4-B3-B2

単バンド表示から3バンド表示、あるいは3バンド表示から単バンド表示に切り替える際には、以下のボタンを押してください。

Reset visualization method

4: 表示させる最小・最大の画素値 (光学の場合は反射率×10000、SARの場合は後方散乱の値 (マイナスの値)) をテキストボックスに入力してください (必須)。

0

2000

5: 表示させたいデータの観測時期 (検索開始・終了日) を例のようにテキストボックスに入力してください (必須)。

2025-09-04

2025-09-11

5: 表示させたいデータの観測時期 (検索開始・終了日) を例のようにテキストボックスに入力してください (必須)。

2025-09-04

2025-09-11

6: データの合成方法を選択してください (必須)。

最新 (合成しない)

7: 雲マスクを適用する場合は、チェックを入れてください (任意)。

Cloud Masking

8: 表示ボタンを押して、画像を表示してください (必須)。

Load image

9 画素値 (最上層レイヤ) :
Longitude: 139.69994 Latitude: 35.67360
10 画素値 (最上層レイヤ) :
207,285,168
11 観測日 (所定期間内) :
最初の観測: 2025-09-05
最後の観測: 2025-09-08

次のページでこの欄の説明をします



この衛星画像がいつのものなのかの説明

観測日(所定期間内):

最初の観測: 2025-09-05

最後の観測: 2025-09-08

最後の観測の日が左の衛星画像の撮影日です

⚠ 全体に雲がかかってしまっている場合は、5の入力をそれぞれ前倒しにしてみましょう

5: 表示させたいデータの観測時期(検索開始・終了日)を例のようにテキストボックスに入力してください (必須)。

上の欄には期間の開始日を「**2025-08-01**」のように入力してください

下の欄には期間の最終日を「**2025-09-01**」のように入力してください

上の**赤く**なっているところを変更し、8の「Load image」を押すと再び表示されます

2025年10月時点の情報に基づいています

ひとつ

これが基本的な使い方です

色々と表示してみても慣れてみましょう

雲がかかっているデータなどがありますが、うまく期間をずらして雲が少ないデータを表示してみましょう

2025年10月時点の情報に基づいています

出典:

出典:RESTEC「VEGA」画面スクリーンショット

注記:

本資料は教育目的で作成されたものです。

VEGAのデータ利用条件は将来変更される可能性があります。

作成:

宇宙開発フォーラム実行委員会(SDF) dot.プロジェクト